出題の意図と模範解答案

設問１.

＜趣旨＞

二つの自給率の算出根拠の違いを理解して表データを読み取り、平均値などを用いるとともに、日本の地域の農業の特徴についての知識を生かしつつ、分析できる能力があるかを問う。

キーワード：平均値、稲作(等の穀物生産)、生産物単価が高くない、畜産が盛ん、生産物単価が高い畜産、その他の類する用語

＜解答例＞

令和４年度のＡ地域のカロリーベースの自給率の平均値は150％で、生産額ベースでは165％である一方で、Ｂ地域のカロリーベースの自給率の平均値は72％、生産額ベースでは251％となっている。Ａ地域は平地が多く稲作などの穀物生産が盛んな地域で、カロリーベース自給率では100％を上回るが、生産物の単価が高くないため生産額ベースの自給率では165％にとどまる。一方Ｂ地域はカロリーベースでは100％を下回るが、Ａ地域と比較して、稲作などの穀物生産がそこまで盛んでないことと、Ｂ地域は特に畜産が盛んであり、畜肉など生産単価の高い畜産物を多く生産するため、生産額ベース自給率では251％と他の地域を大きく上回る。

設問２.

＜趣旨＞

日本の食料自給率が低迷している様々な要因についての知識を有しており、その対応に関する考えを述べることができるかを問う。

キーワード：家畜飼料、海外産の穀物に依存、自給飼料の増産、食料生産の大切さ、食に対する高い意識、その他の類する用語

＜解答例＞

日本の食料自給率が低迷する大きな要因として、畜産物を生産するための家畜飼料のほとんどを海外産の穀物に依存していることが挙げられる。そして私は、海外産穀物飼料に過度に依存しない畜産を行うためには、特に自給飼料の増産が重要であると考える。例えば、国産とうもろこしの増産、耕作放棄地を利用した飼料用米の活用、食品残さなどの未利用資源の飼料利用などがある。同時に私は、健全な国家運営における食料生産の大切さや、人の健康と繁栄における食の大切さについて、幼少期から継続して学ばせる「食育」が重要であると考える。食に対する高い意識を持った国民を

育てることが結果的には食料自給率の向上につながると考える。

設問３.
＜趣旨＞グラフ等の統計資料から情報を読み取る能力、海外の情勢や家畜家禽の感染症が国内の畜産業および社会に及ぼす影響についての知識と考察力を問うとともに、課題解決に向けて的確に考える力を見極める。

キーワード：飼料(穀物)、鳥インフルエンザ、殺処分、生産コスト、値上げ、(鶏卵)不足、食品(製造)業界、防疫、その他の類する用語
＜解答例＞
令和４年２月にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、鶏の飼料に欠かせない穀物の価格が世界で上昇した。同時に世界で原油に関する供給不足の懸念が高まって価格が高騰し、養鶏業の生産コストが上昇した。さらに令和４年秋季以降、日本国内では鳥インフルエンザが猛威を振るい、養鶏業界で前例のない規模の被害が発生した。全国で採卵鶏を含む 1,000 万羽以上もの鶏が処分され、鶏卵の生産力、出荷数は令和５年初めから大幅に落ち込んだ。このため、全国の小売店では鶏卵の入荷数不足が発生し、令和５年の６月には鶏卵の市場価格が１パックあたり 60 円以上の大幅な値上げという事態となった。鶏卵の不足と値上げは、家庭の食生活のみならず鶏卵を原材料に用いる多くの食品業界にも大きな影響を及ぼした。鶏卵の安定的供給のため、私は穀物飼料の国内自給率の向上とともに、年々増加する鳥インフルエンザに対する防疫の徹底を社会全体で進めるべきと考える。